

高崎市文化財調査報告書第407集

本郷田中遺跡

—送電線用鉄塔建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2018

高崎市教育委員会
SHINKO 合同会社
有限会社毛野考古学研究所



調査区全景（空撮、南から）



古墳時代の出土遺物

例 言

1. 本書は、送電線用鉄塔建設に伴う本郷田中遺跡（市遺跡番号 704）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 「本郷田中遺跡」は、群馬県高崎市吉井町本郷字田中 616 番地 1 に所在する。
3. 発掘及び整理調査の期間・発掘調査の面積は次のとおりである。
【発掘調査期間】 平成 29 年 7 月 31 日～平成 29 年 8 月 12 日
【整理調査期間】 平成 29 年 8 月 13 日～平成 30 年 3 月 31 日
【発掘調査面積】 172m²
4. 発掘及び整理調査は、開発事業者である SHINKO 合同会社、高崎市教育委員会、有限会社毛野考古学研究所による三者協定を締結し、高崎市教育委員会の指導のもと、委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。
5. 発掘及び整理調査に関わる経費は SHINKO 合同会社の負担による。
6. 発掘及び整理調査は、常深尚(有限会社毛野考古学研究所)が担当した。
7. 本書の編集・執筆については、矢島浩(高崎市教育委員会文化財保護課)・常深が協議して行い、第 1 章を矢島、第 2～6 章を常深が執筆した。
8. 遺構及び遺物の写真は常深が撮影し、空中写真は小出拓磨(有限会社毛野考古学研究所)が撮影した。
9. 調査資料は、一括して高崎市教育委員会で保管している。
10. 発掘及び整理調査の参加者は、以下のとおりである。
(発掘調査) 碓井俊夫 岡庭秋男 亀田浩子 橋元裕児
(整理作業) 磯洋子 齋藤真琴 土井道昭 半澤利江 山田美智子 吉村光恵
11. 発掘調査の実施から報告書の刊行に至る過程で下記の機関にご協力賜わった。記して感謝申し上げる次第である(敬称略、順不同)。
Quantum Power 合同会社 弘福寺 カネコハウス(有) (有)明総

凡 例

1. 挿図中に使用した方位は、国家座標 (IX 系) の北を表す。座標軸は世界測地系である。
2. 本書ではテフラの呼称として次の記号を用いた。
As-A : 1783 (天明三) 年噴出の浅間 A テフラ
3. 遺構の表記は以下の記号を用いた。
SD : 溝 SK : 土坑
4. 遺構及び遺物実測図の縮尺は次のとおりである。
【遺構】 全体図…1/300 溝・土坑…1/60
【遺物】 土器…1/3 石器…1/3
5. 遺物番号は、実測図・観察表・写真図版ともに共通である。
6. 本文・土層断面図・土層注記中のローマ数字は基本土層、算用数字は遺構内堆積土の層番号を表す。
7. 土層及び遺物の色調は『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄著 (財)日本色彩研究所)を使用した。

目次

巻頭図版・例言・凡例・目次

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の立地と歴史的環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の方法と経過	5
第1節 調査の方法	5
第2節 調査の経過	5
第4章 基本層序	5
第5章 遺構と遺物	6
第1節 調査の概要	6
第2節 土坑	7
第3節 溝	10
第4節 遺構外出土遺物	12
第6章 調査成果	13

抄録・写真図版・奥付

挿図目次

第1図 調査区域図	1	第7図 2区遺構平面図・断面図(1)	9
第2図 本郷田中遺跡位置図	2	第8図 2区遺構断面図(2)、出土遺物	10
第3図 本郷田中遺跡周辺の遺跡分布	3	第9図 3区遺構平面図・断面図、出土遺物	11
第4図 基本層序	5	第10図 遺構外出土遺物	12
第5図 本郷田中遺跡全体図	6	第11図 本郷田中遺跡と周辺遺跡	13
第6図 1区遺構平面図・断面図、出土遺物	8		

表目次

第1表 周辺の遺跡一覧表	4	第3表 出土遺物観察表	12
第2表 遺構一覧表	7		

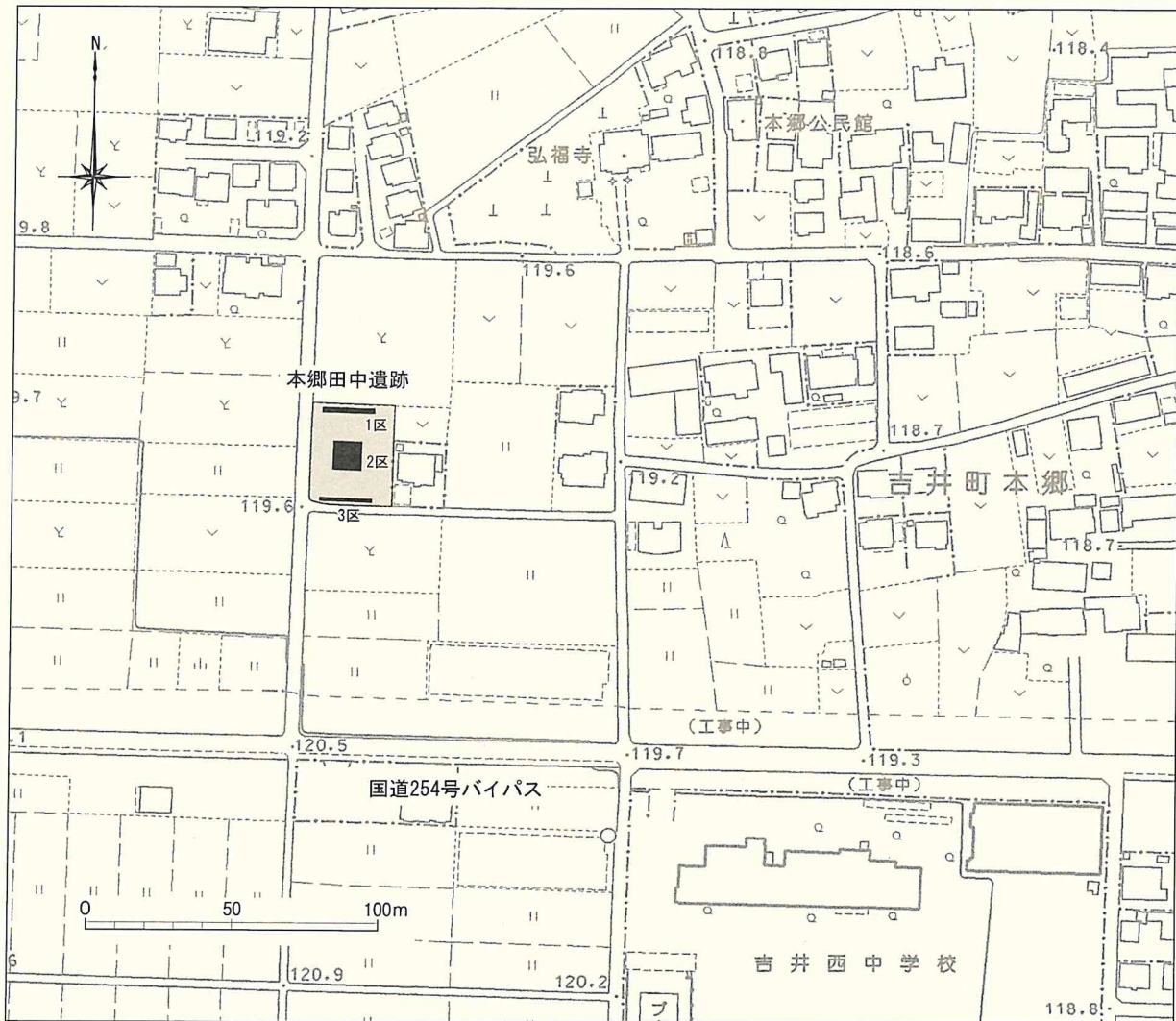
写真図版目次

巻頭図版 調査区全景(空撮、南から)		土坑SK17遺物出土状況(北東から)
古墳時代の出土遺物		土坑SK18全景(南から)
P L . 1 調査区遠景(空撮、西から)		土坑SK19全景(南東から)
調査区全景(空撮、上が北)		土坑SK25遺物出土状況(北から)
1区全景(西から)		溝SD01全景(南から)
P L . 2 2区全景(南から)		溝SD02全景(南西から)
3区全景(東から)		P L . 4 出土遺物①
1区北壁基本土層(南から)		P L . 5 出土遺物②
P L . 3 土坑SK05全景(南から)		
土坑SK12全景(北から)		

第1章 調査に至る経緯

平成29年3月、土地所有者 TAIYOU 合同会社および工事主体者 TASAKI 合同会社・SHINKO 合同会社から、高崎市吉井町本郷において計画している送電線用鉄塔建設に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である吉井町No.50 遺跡に所在するため、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。同年3月1日には、市教委へ埋蔵文化財試掘（確認）調査依頼書が提出され、同年4月12日に試掘（確認）調査を実施した。その結果、古墳時代の遺構を確認した。この結果をもとに開発者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお遺跡名については「本郷田中遺跡」とした。同年7月24日に文化財保護法に基づく届出が提出された。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要項」に順じ、平成29年7月14日に工事主体者 SHINKO 合同会社と民間調査機関有限会社毛野考古学研究所との間で契約を締結、また同日に SHINKO 合同会社・有限会社毛野考古学研究所・市教委での三者協定も締結し、調査の実施にあたって市教委が指導・監督をすることとなった。



第1図 調査区域図（高崎市発行『高崎市都市計画基本図』1/2,500）

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

第1節 地理的環境

本郷田中遺跡は群馬県南西部、高崎市の旧吉井町域に位置する。遺跡北側を東へ流れる鍋川は、長野県との県境を水源として、烏川に合流する。流域は「鍋の谷」と称されて、古くから上信国境の重要な交通路であった。

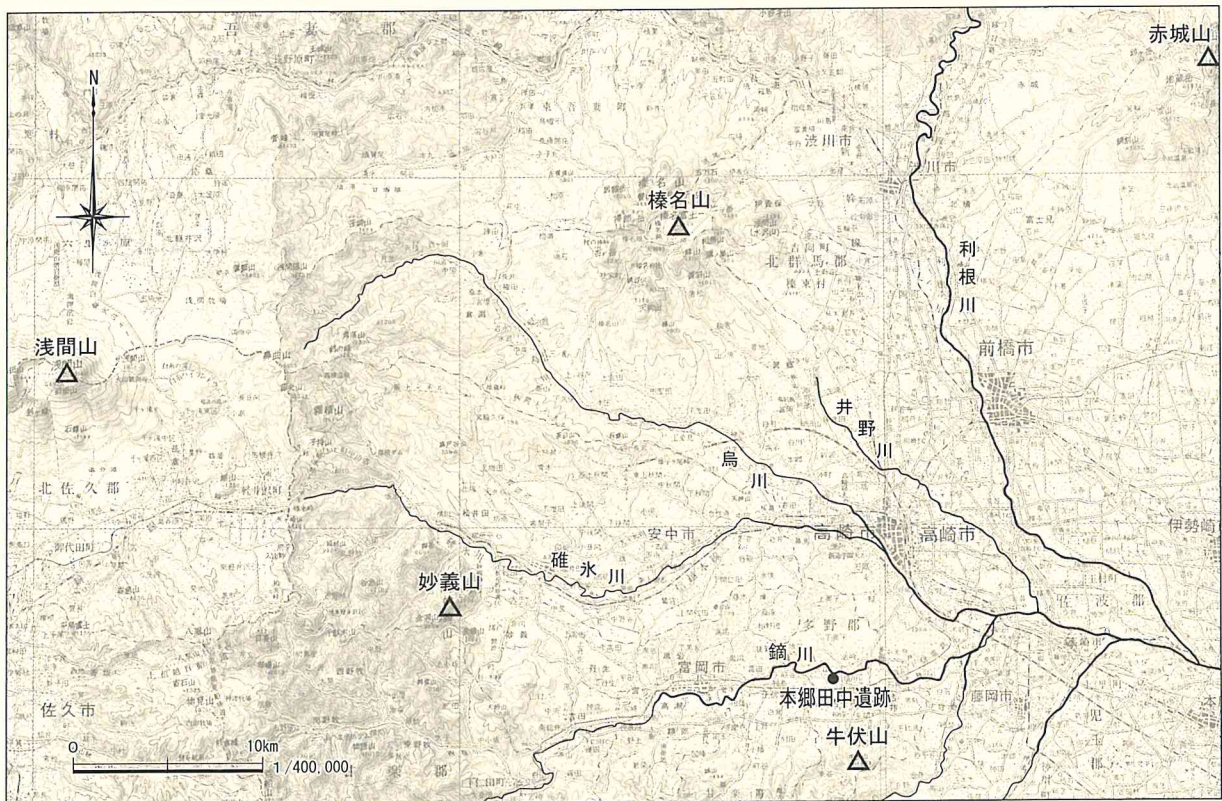
鍋川の右岸には河岸段丘が三段あり、本遺跡は片山・長根段丘と呼ばれる下位段丘に位置し、この段丘の東側を大沢川、西側を天引川がそれぞれ北流し、鍋川に合流している。南側には水田地帯を経て、神保段丘と呼ばれる中位段丘、さらに上位段丘が続き、牛伏山（標高491m）に至る。

第2節 歴史的環境

縄文時代は前期の椿谷戸遺跡（16）や神保富士塚遺跡（31）の集落、中期の神保植松遺跡（30）の土坑群など、鍋川右岸の中位段丘に目立ち、左岸では東吹上遺跡（6）に中期の土器群がある。低位段丘の塩川砂井戸遺跡（4）では、後期後半の敷石住居と列石が調査されている。

弥生時代は中期の土坑群を調査した神保富士塚遺跡（31）に始まり、後期には長根安坪遺跡（40）など中位段丘に大規模な集落が展開する。近年、下位段丘の本郷畑内遺跡（3）でも後期の竪穴住居跡が調査された。

古墳時代の集落は、弥生時代後期から継続して中位段丘に前期のものがあり、後期には長根羽田倉遺跡（34）のように滑石製品の工房を含みながら、大きく増加する。低位段丘の片山遺跡群（5）・本郷畑内遺跡（3）にも



第2図 本郷田中遺跡位置図（国土地理院発行『宇都宮』・『長野』1/200,000を50%縮小）

前期・後期の小規模な集落がある。古墳は鎭川右岸沿いの低位段丘に前期の片山1号墳(A)があり、後期古墳群は本郷古墳群(B)・北原古墳群(C)・下池古墳群(D)がある。大沢川沿いの中位段丘には神保古墳群(G)・多胡古墳群(H)で後期の大規模な古墳群がある。

奈良・平安時代には、本遺跡の東方2.5kmにある多胡碑(9)が示すように、旧吉井町域は和同四(711)年建郡の多胡郡に属した。中位段丘の矢田遺跡(18)・北高原遺跡(27)・神保境遺跡(28)・神保富士塚遺跡(31)・長根羽田倉遺跡(34)などの集落は、古墳時代後期から更に大規模化する。矢田遺跡では郷名を示す石製紡錘車が出土したことで著名である。下位段丘では、小規模ながら道六神遺跡(2)・本郷畑内遺跡(3)・片山遺跡群(5)などで集落が調査され、これらの集落の南側には、かつて長根条里(J)と呼ばれる条里地割が存在した。道六神遺跡で、その痕跡を留める溝が調査されている。

引用・参考文献 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2015『本郷畑内遺跡』



第3図 本郷田中遺跡周辺の遺跡分布 (国土地理院発行 電子地形図『上野吉井』・『富岡』1/25,000)

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

No.	遺跡名	主な時代・遺構・遺物	主な文献
1	本郷田中遺跡	古墳時代前期土坑	本報告の遺跡
2	道六神遺跡	平安時代住居・溝・水田址、条里制地割カ	吉井町教育委員会1986「道六神遺跡」
3	本郷畑内遺跡	弥生時代後期～平安時代住居・掘立・溝、古墳時代前期腕輪状土製品、奈良平安時代石帯・カマド形土器	群理文ほか2015「本郷畑内遺跡」
4	塩川砂井戸遺跡	縄文時代後期堀ノ内2式期柄鏡形敷石住居・弧状列石、古墳時代後期～平安時代住居、中世以降掘立・方形区画溝	群理文ほか2015「塩川砂井戸遺跡」
5	片山遺跡群	古墳時代前期・後期集落、奈良平安時代集落	吉井町教育委員会2004「片山遺跡群発掘調査報告書」
6	東吹上遺跡	縄文時代中期・弥生時代中期遺物、古墳時代後期集落	群馬県立博物館1973「東吹上遺跡」
7	富岡遺跡	縄文時代前期～中期遺物、平安時代集落	吉井町教育委員会1989「富岡遺跡」
8	川福遺跡	古墳時代～奈良平安時代集落、須恵器工人集落カ、平安時代土錘大量出土	吉井町教育委員会1986「川福遺跡調査報告書」・2002「川福遺跡第二次発掘調査報告書」
9	多胡碑	日本三古碑(711年多胡郡建部を記す)の一つ	吉井町誌編さん委員会1974「吉井町誌」
10	竹腰遺跡	縄文時代前期、古墳時代前期・後期遺物、平安時代集落	吉井町教育委員会1990「竹腰遺跡」
11	釜ヶ淵遺跡	奈良平安時代集落カ	
12	上河原遺跡	平安時代集落	吉井町教育委員会2004「上河原遺跡発掘調査報告書」
13	御門遺跡	古墳時代前期集落、平安時代集落、中近世土坑、多胡郡衙の推定地	吉井町教育委員会1995「御門遺跡発掘調査報告書」
14	吉井川下宿遺跡	古墳時代後期集落、近世鍛冶工房・道路	群理文2013「吉井川下宿遺跡」
15	多比良親音山遺跡	平安時代水田	吉井町教育委員会1999「多比良親音山遺跡発掘調査報告書」
16	椿谷戸遺跡	縄文時代前期・中期集落、古墳時代後期～平安時代集落	吉井町教育委員会1989「椿谷戸遺跡」・1990「椿谷戸遺跡Ⅱ」・2004「椿谷戸遺跡第四次発掘調査報告書」
17	川内遺跡	縄文時代中期遺物、古墳時代後期～平安時代集落、中近世土坑墓	吉井町教育委員会1982「川内遺跡」・2004「川内遺跡第二次発掘調査報告書」
18	矢田遺跡	縄文時代中期集落・前期～後晩期遺物、弥生時代後期～平安時代集落、中世館、古代多胡郡矢田郷の中核地、「八田郷」刻書石製紡錘車	群理文1990～1997「矢田遺跡」～「矢田遺跡Ⅵ」、吉井町教育委員会2001「矢田遺跡発掘調査報告書」・2004「矢田遺跡(第3次)発掘調査報告書」
19	柳田遺跡	古墳時代後期～平安時代集落	吉井町教育委員会1989「柳田遺跡発掘調査報告書」
20	多胡蛇尾遺跡	縄文時代中期集落、古墳時代後期～平安時代集落	群理文1993「多胡蛇尾遺跡」
21	多胡葉師塚古墳	後期古墳	吉井町誌編さん委員会1974「吉井町誌」
22	東シメ木遺跡	後期古墳6基(多胡古墳群内)・玉類・金銅製品、平安時代集落	吉井町教育委員会2005「東シメ木・多胡松原遺跡発掘調査報告書」
23	多胡松原遺跡	古墳時代後期～平安時代集落	吉井町教育委員会2005「東シメ木・多胡松原遺跡発掘調査報告書」
24	下条遺跡	古墳時代後期集落・古墳(多胡古墳群内)、中世館	吉井町教育委員会2004「下条遺跡発掘調査報告書」
25	神保下條遺跡	縄文時代中期集落、古墳時代前期・後期集落・豊富な土輪をもつ後期古墳、奈良時代集落、As-A下水田・畑	群理文1992「神保下條遺跡」
26	南高原遺跡	古墳時代後期～平安時代集落、弥生時代周溝墓、後期古墳	吉井町教育委員会2004「安坪古墳群・長根遺跡群発掘調査報告書Ⅵ」・2005「安坪古墳群・長根遺跡群発掘調査報告書Ⅶ」
27	北高原遺跡	古墳時代前期・後期集落、後期古墳、奈良平安時代集落	吉井町教育委員会1995「長根遺跡群発掘調査報告書Ⅲ」
28	神保境遺跡	古墳時代前期・後期集落、後期古墳、奈良平安時代集落	吉井町教育委員会1995「長根遺跡群発掘調査報告書Ⅲ」
29	折茂東遺跡	弥生時代後期～平安時代集落	吉井町教育委員会1987「東沢遺跡 折茂東遺跡」
30	神保植松遺跡	縄文時代前期～中期集落、弥生時代中期集落、古墳時代後期～平安時代集落、中世城郭	群理文1997「神保植松遺跡」
31	神保富士塚遺跡	縄文時代前期～中期集落、弥生時代中期土坑群、古墳時代前期・後期集落、奈良平安時代集落	群理文1993「神保富士塚遺跡」
32	宮西遺跡	古墳時代後期～平安時代集落	吉井町教育委員会2003「長根遺跡群発掘調査報告書Ⅵ」
33	富士塚遺跡	奈良平安時代集落	吉井町教育委員会2003「長根遺跡群発掘調査報告書Ⅵ」
34	長根羽田倉遺跡	縄文時代前期～後晩期遺物、古墳時代前期・後期集落(帯石模造品・石製紡錘車工房含む)、奈良平安時代集落・平安時代水田	群理文1990「長根羽田倉遺跡」
35	羽田倉遺跡	旧石器、古墳時代後期集落、奈良平安時代集落	吉井町教育委員会2003「長根遺跡群発掘調査報告書Ⅵ」・2006「長根遺跡群発掘調査報告書Ⅹ」
36	折茂Ⅲ遺跡	縄文時代前期集落、古墳時代後期～平安時代集落、暗文土器多数	吉井町教育委員会2006「長根遺跡群発掘調査報告書Ⅹ」
37	東馬脇庵寺		
38	上の場遺跡	古墳時代前期・後期集落、奈良平安時代集落	吉井町教育委員会1998「長根遺跡群発掘調査報告書Ⅴ」・2003「長根遺跡群発掘調査報告書Ⅵ」
39	西馬脇・長根宿遺跡	縄文時代前期・中期遺物、古墳時代前期・後期集落、奈良平安時代集落、石帯出土	吉井町教育委員会2003「長根遺跡群発掘調査報告書Ⅵ」・2004「安坪古墳群・長根遺跡群発掘調査報告書Ⅶ」・2007「長根遺跡群発掘調査報告書Ⅺ」
40	恩行寺裏古墳	中期古墳	吉井町誌編さん委員会1974「吉井町誌」
41	長根安坪遺跡	縄文時代中期集落、弥生時代後期集落、古墳時代周溝墓・古墳、古墳時代後期～平安時代集落	群理文1997「長根安坪遺跡」
A	片山古墳群	鑄川右岸、粘土帯を有する前期古墳を調査し、小型仿製内行花文鏡・鉄剣・鉄斧・石製模造品等豊富な遺物が出土。ほかに後期横穴式石室の円墳調査。	吉井町教育委員会2004「片山遺跡群発掘調査報告書」
B	本郷古墳群	鑄川右岸、21基の後期古墳群。	吉井町誌編さん委員会1974「吉井町誌」
C	北原古墳群	大沢川右岸で鑄川に合流する地点に位置。本郷古墳群対岸の後期古墳群。	吉井町誌編さん委員会1974「吉井町誌」
D	下池古墳群	鑄川右岸、多胡碑上流側に隣接。	吉井町誌編さん委員会1974「吉井町誌」
E	高木古墳群	鑄川右岸、多胡碑下流側に隣接。6基現存。	吉井町誌編さん委員会1974「吉井町誌」
F	塚原古墳群	前方後円墳を含む後期古墳群。蛇田古墳の調査。	吉井町誌編さん委員会1974「吉井町誌」・吉井町教育委員会1987「蛇田古墳」
G	神保古墳群	大沢川左岸で対岸の多胡古墳群に次ぐ63基の後期古墳群。	吉井町誌編さん委員会1974「吉井町誌」
H	多胡古墳群	大沢川右岸の地域最大規模の91基以上の古墳群。	吉井町誌編さん委員会1974「吉井町誌」
I	塩Ⅱ古墳群	12基の後期古墳群。	吉井町誌編さん委員会1974「吉井町誌」
J	長根条里	低位段丘(片山・長根段丘)上の条里跡。道六神遺跡で痕跡を確認。	吉井町教育委員会1986「道六神遺跡」

引用・参考文献:公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2015「本郷畑内遺跡」

群理文 = 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

第1表 周辺の遺跡一覧表

第3章 調査の方法と経過

第1節 調査の方法

表土掘削は重機を使用し、ローム質土（Ⅵ層）上面まで掘削した。遺構検出はⅥ層上面で行い、溝・土坑を確認した。遺構の測量は、断面図を手実測（縮尺1/20）、平面図を電子平板で行った。遺構の写真撮影は、35mmモノクロ・カラーリバーサルのフィルムカメラとデジタルカメラを併用した。遺跡全景の空中写真はドローン（DJI社 Phantom 2 Vision+）を使用して撮影した。

遺物注記は手書きにて行い、「704 SK01 No.1」のように注記した。遺物の写真撮影はデジタルカメラ（Nikon D5500）を使用した（JPEG、RAW）。遺構図・遺物実測図・報告書作成ともにAdobe®Creative Suite®でデジタルトレース・編集等を実施し、印刷所にはPDF型式（X-1a;2001）で入稿した。

第2節 調査の経過

- 【7月】 31日：調査区域の設定と発掘器材の搬入。1・2区の表土掘削を行う。
- 【8月】 1日：2・3区の表土掘削を行う。GPS測量と基準点の設置。遺構検出作業を行い、土坑・溝を検出した。3区から遺構掘削を開始する。2日：3区から縄文時代の石器・古墳時代の土師器が出土。3日：1区の遺構掘削を開始する。4日：1区から古墳時代の土師器高坏・縄文時代の石器が出土。7日：2区の遺構掘削を開始する。8日：台風の大雨による排水作業。9日：2区から古墳時代の土師器甕が出土。10日：高崎市教育委員会の現地調査終了確認検査を受ける。11日：調査区上空撮を行う。遺構測量を終える。12日：調査区の埋め戻しと発掘器材の撤収。
- 【9・10月】 出土遺物の洗浄・注記、報告書掲載遺物の写真撮影、遺構全体図の編纂、遺構写真図版作成を行う。
- 【11・12月】 報告書掲載遺物の実測・トレース、遺構図版作成、報告書原稿執筆を行う。
- 【1・2月】 遺物図版作成、報告書編集を行う。報告書データを入稿し、校正を行う。
- 【3月】 報告書の印刷製本を行う。成果品の準備を行い、報告書とともに納品する。

第4章 基本層序

	120.0m	_____
I層 暗褐色の表土。		I
II層 旧水田の埋め立て土。現代ゴミ含む。 2区ではⅥ層上面まで及ぶ。		II
III層 灰褐色土。As-A多量に含む。1区のみ検出。	119.5m	_____
IV層 暗褐色土。1区のみ検出。		IV
V層 黒褐色土。Ⅵ層小ブロック含む。1・3区で検出。		V
VI層 砂礫混りのローム土。遺構検出面。	119.0m	_____

第4図 基本層序(1区北壁、1/20)

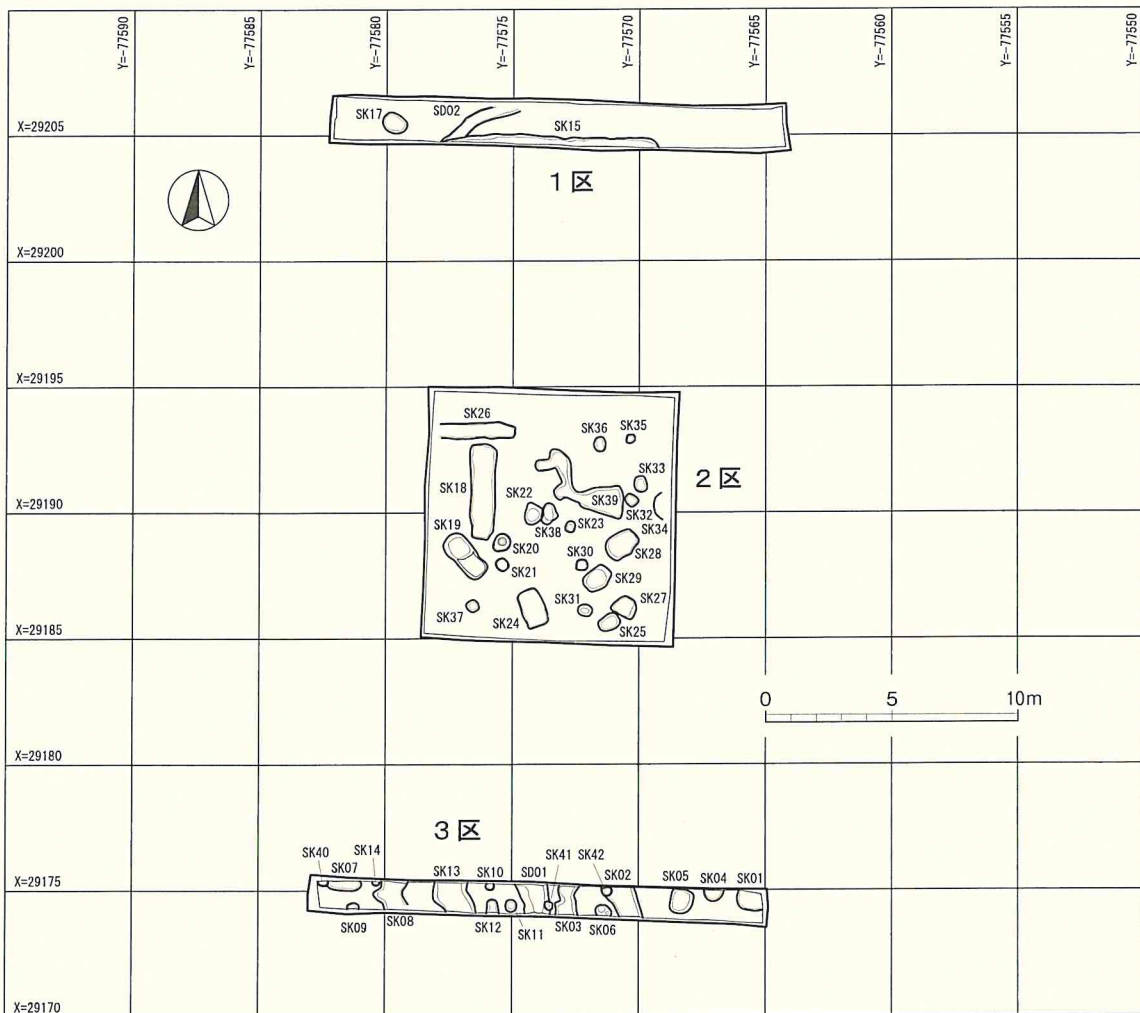
第5章 遺構と遺物

第1節 調査の概要

調査区は1～3区に分かれ、3区・1区・2区の順に遺構調査を実施した。遺構確認面であるⅥ層上面は、遺跡北方を流れる鍋川に向かって下っており、1区は3区より20cmほど低い。2区はⅡ層が遺構確認面まで達しているために確認できなかったが、1・3区では遺物包含層の可能性のあるⅤ層を検出した。ただし調査範囲内ではⅤ層から遺物は出土しなかった。

確認された遺構は土坑41基と溝2条である（第5図）。土坑は2区と3区に多く分布し、1区では少なくなる。土坑のなかにはピットに近いものもあったが、2区を中心に遺存状況が悪く、土坑が削平されてピット状に残っていることも想定されたため、今回は全て土坑として扱った。土坑間で重複がほとんど認められないことから、比較的近い時期に掘削された一連の土坑群と判断される。

遺物はほぼ古墳時代前期の土師器に限定され、須恵器は出土していない。土師器の高坏脚部の形状や、ハケメのない台付甕などから、5世紀前半まで下るものである。ほかには、遺構に伴わない縄文土器や石器が少量確認されている。



第5図 本郷田中遺跡全体図 (1/300)

第2節 土坑

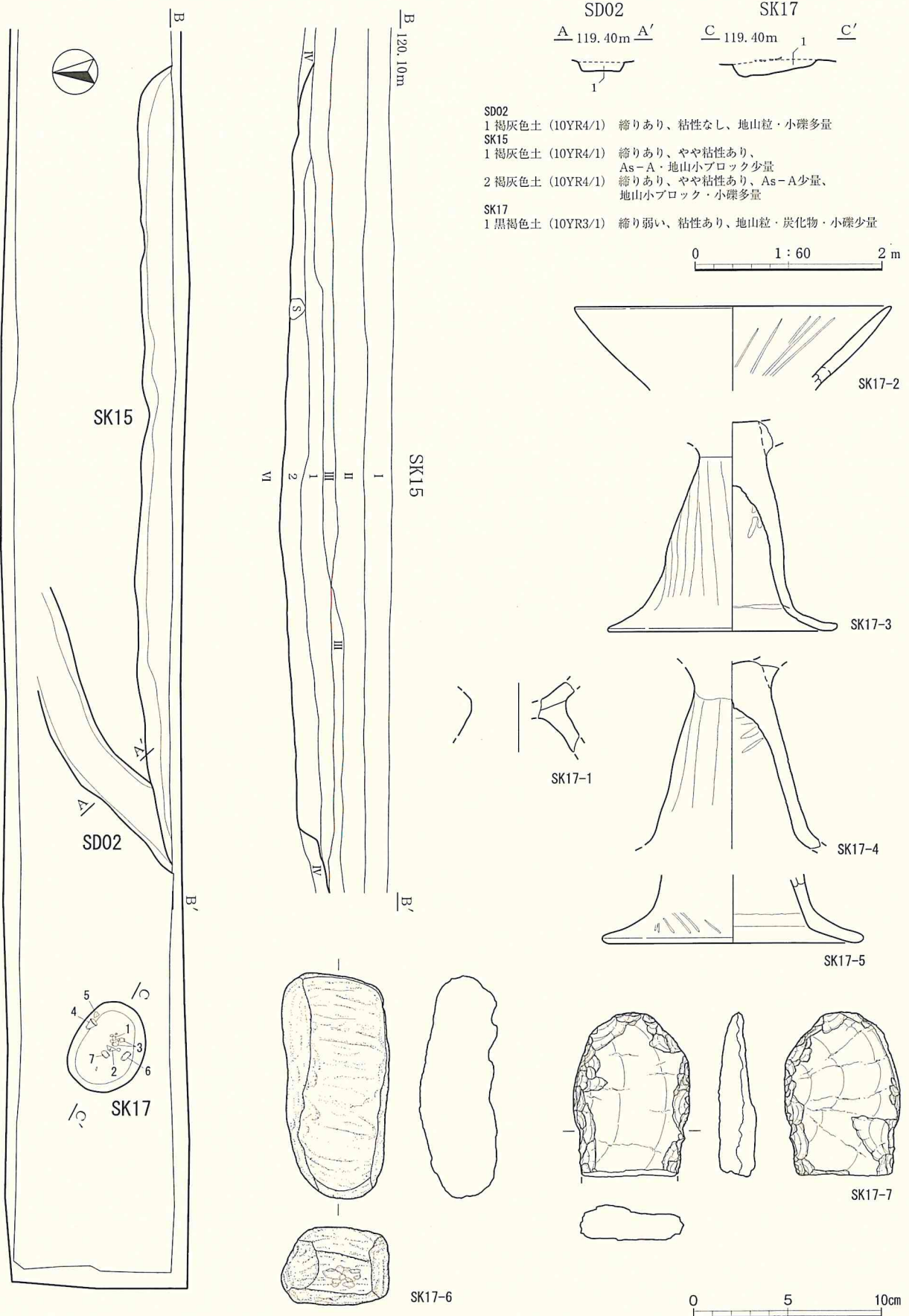
土坑 SK01～42 (第6～9図、P.L.3～5)

41基の土坑を検出し (SK16は欠番)、2区と3区に多い傾向にある。土坑の平面形状は、長軸が短軸の2倍以上の長大な長方形 (SK18・26)、長軸が短軸の1.5倍程度の長方形 (SK19・24・28・29)、方形に近い長方形 (SK05・25・27)、円形 (SK20・21) などがある。土坑の長軸方位は、長大な長方形のものが東西ないし南北に揃うのに対し、それ以外の長方形のものは西へ10°～40°傾くか、それに直交するものが多い。土坑間での重複はほとんどみられず、一定の間隔を置いて近接する様子から、この土坑群は同時期に掘削されたものと考えられる。ただしSK12は、覆土に焼土・炭化物を多く含む点で異なっており、土坑の性格に違いが想定される。またSK15は覆土にAs-Aを含むことから、土坑群とは区別する。

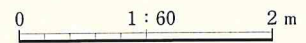
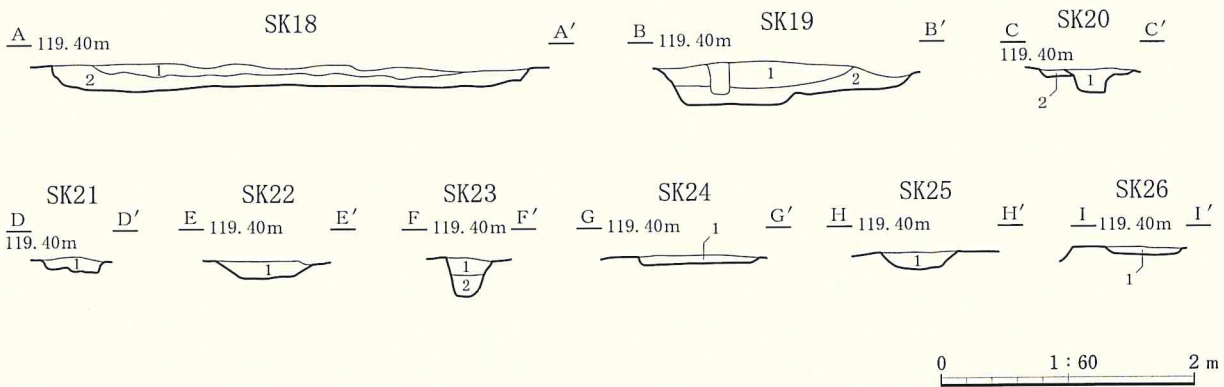
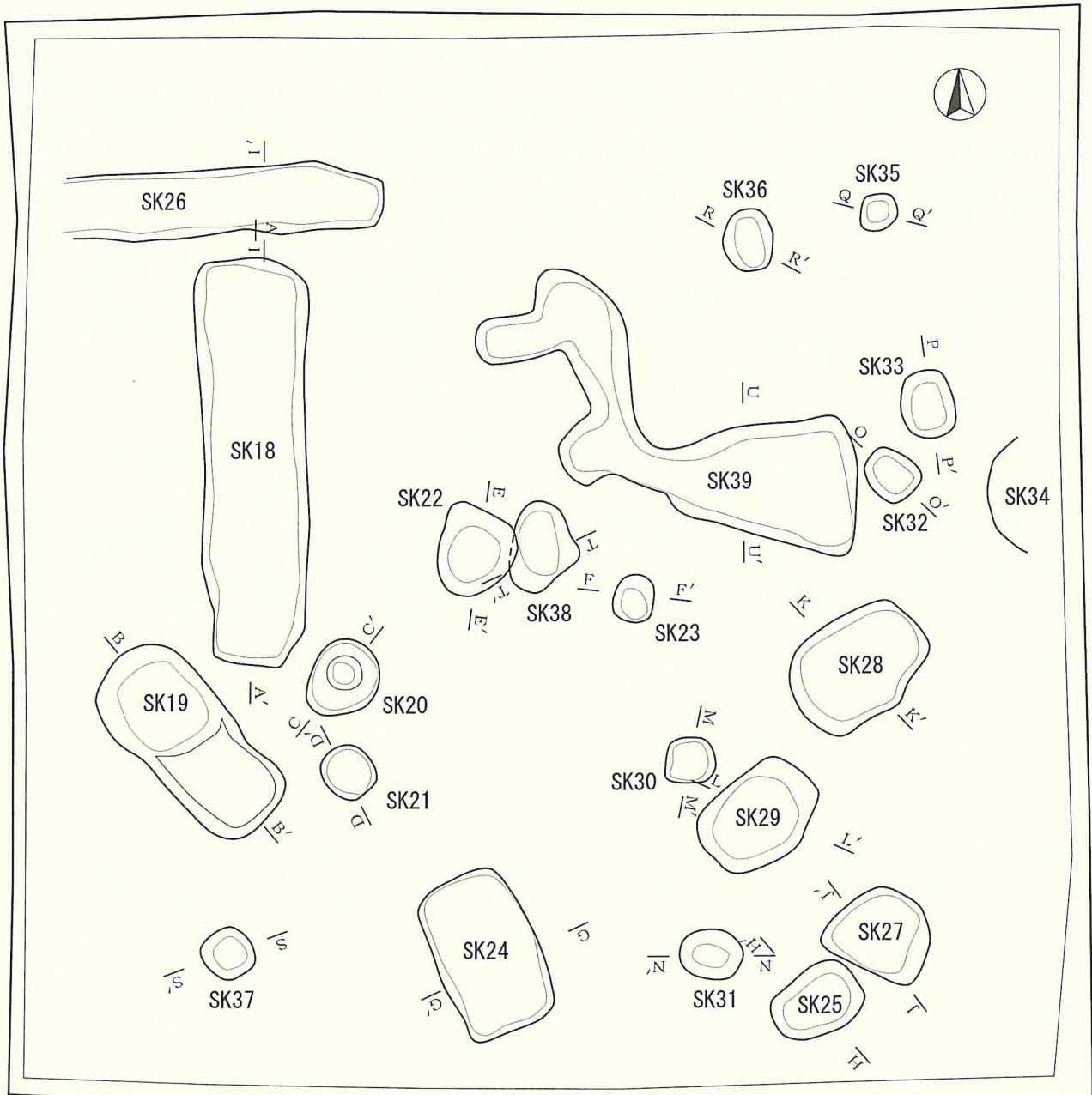
土坑群からの出土遺物は少ないが、古墳時代前期の土師器台付甕・高坏・鉢が確認された。高坏の形状などから前期末に位置づけられるものである。土師器は高坏が大部分を占める。甕・壺は出土しておらず、台付甕は脚部がみられるものの、口縁部から胴部の破片は全くみられない。SK25の遺物が土坑底面付近から出土しているのに対し、SK17では覆土上層から高坏がまとまって出土している。2区における削平の影響と土坑出土遺物の少なさを考えれば、SK17のように覆土上層から高坏を主体とした土師器が出土するのが、本来の土坑群の遺物のあり方と判断される。

番号	平面形	長径/短径/深さ (cm)	長軸方位	その他 (覆土・出土遺物等)	番号	平面形	長径/短径/深さ (cm)	長軸方位	その他 (覆土・出土遺物等)
SK01	隅丸長方形カ	106+a/73+a/17	N-10°-E		SK23	円形	44/38/32	-	
SK02	不整長方形	125+a/120/12	N-17°-W	土師器(高坏)。	SK24	隅丸長方形	152/95/16	N-22°-W	
SK03	不整長方形	111+a/82/31	N-8°-W		SK25	隅丸長方形	86/61/17	N-60°-E	土師器(鉢・台付甕・高坏)。
SK04	円形カ	77/42+a/4	-		SK26	隅丸長方形カ	299+a/64/12	N-89°-W	
SK05	隅丸長方形	97/89/20	N-11°-E		SK27	不整長方形	95/80/17	N-57°-W	
SK06	楕円形	64/53/27	N-46°-W		SK28	隅丸長方形	133/98/14	N-54°-E	
SK07	隅丸長方形カ	137/39+a/6	N-86°-W	SK40に切られる。	SK29	隅丸長方形	113/84/8	N-49°-E	
SK08	不整長方形カ	113+a/116/17	N-7°-W		SK30	隅丸方形	45/42/7	N-87°-W	
SK09	円形	48/23+a/13	-		SK31	隅丸長方形	57/47/21	N-66°-W	土師器(高坏)。
SK10	円形	35/26+a/15	-		SK32	隅丸長方形	51/43/9	N-49°-W	
SK11	円形	48/44/24	-		SK33	隅丸長方形	63/49/9	N-10°-W	
SK12	隅丸長方形カ	50+a/51/22	N-2°-W	土師器(高坏)。焼土・炭化物。	SK34	円形カ	108+a/32+a/-	-	
SK13	不整長方形カ	118+a/136/17	N-17°-W	リタッチドフレイク。	SK35	隅丸方形	34/34/8	N-2°-W	
SK14	円形	29/17+a/17	-		SK36	隅丸長方形	57/48/13	N-9°-W	
SK15	隅丸長方形カ	850+a/45+a/40	N-88°-W	As-A含む。SD02を切る。	SK37	隅丸方形	46/45/7	N-34°-W	
SK17	不整長方形	99/76/28	N-52°-W	土師器(台付甕・高坏)、 敲石カ、打裂石斧。	SK38	不整長方形	85/63/13	N-6°-E	SK22に切られる。
SK18	隅丸長方形	377/95/18	N-4°-E	土師器(高坏)。	SK39	不整形	358/125/12	-	複数の土坑の重複カ。
SK19	隅丸長方形	202/98/33	N-41°-W		SK40	円形カ	42/20+a/15	-	SK07を切る。
SK20	楕円形	75/64/22	N-35°-E		SK41	不整円形	33/32/43	-	
SK21	円形	50/46/14	-		SK42	円形	37/37/15	-	
SK22	不整円形	81/70/14	-	SK38を切る。土師器(甕)。	SD01	-	118+a/123/42	N-9°-W	
					SD02	-	321+a/48/14	N-59°-E	SK15に切られる。

第2表 遺構一覧表

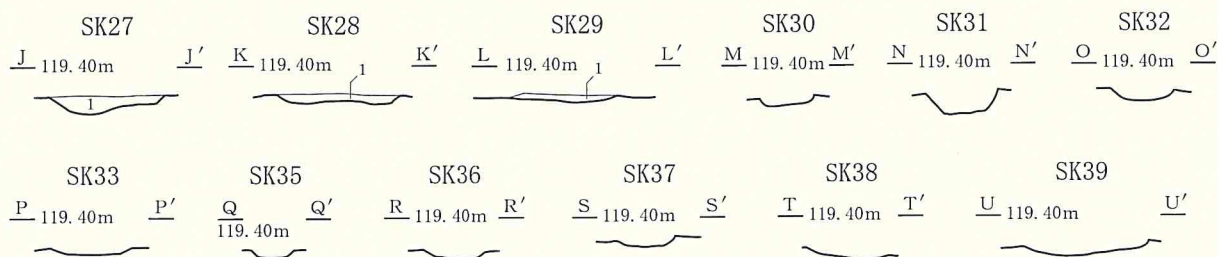


第6図 1区遺構平面図・断面図、出土遺物



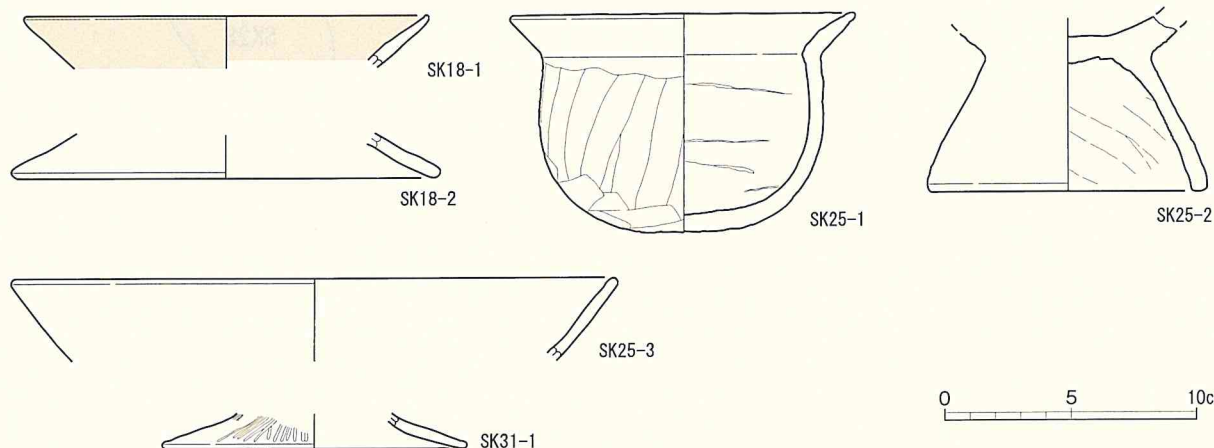
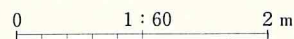
第7图 2区遺構平面図・断面図(1)

第5章 遺構と遺物



- SK18
 1 黒褐色土 (10YR3/1) 締りあり、粘性なし、地山粒少量
 2 黒褐色土 (10YR3/1) 締りやや弱い、粘性なし、地山小ブロック多量、炭化物・小礫少量
- SK19
 1 褐色土 (10YR4/1) 締りあり、粘性なし、地山粒少量
 2 褐色土 (10YR4/1) 締りあり、粘性なし、地山小ブロック・小礫多量
- SK20
 1 黒褐色土 (10YR3/1) 締りやや弱い、粘性なし、炭化物・小礫少量
 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) 締り弱い、やや粘性あり、地山粒多量
- SK21
 1 暗褐色土 (10YR3/3) 締り弱い、粘性なし、地山粒少量
- SK22
 1 黒褐色土 (10YR3/1) 締りやや弱い、粘性なし、地山粒少量
- SK23
 1 黒褐色土 (10YR3/1) 締りあり、粘性なし、地山粒少量
 2 黒褐色土 (10YR3/1) 締りあり、粘性なし、小礫多量

- SK24
 1 黒褐色土 (10YR3/1) 締り弱い、やや粘性あり、地山粒多量
- SK25
 1 黒色土 (10YR2/1) 締りあり、やや粘性あり、炭化物少量
- SK26
 1 黒褐色土 (10YR3/1) 締りあり、粘性なし、地山ブロック・小礫多量
- SK27
 1 黒色土 (10YR2/1) 締りあり、やや粘性あり、炭化物少量
- SK28
 1 黒褐色土 (10YR3/1) 締り弱い、やや粘性あり、地山粒多量
- SK29
 1 黒褐色土 (10YR3/1) 締り弱い、やや粘性あり、地山粒多量

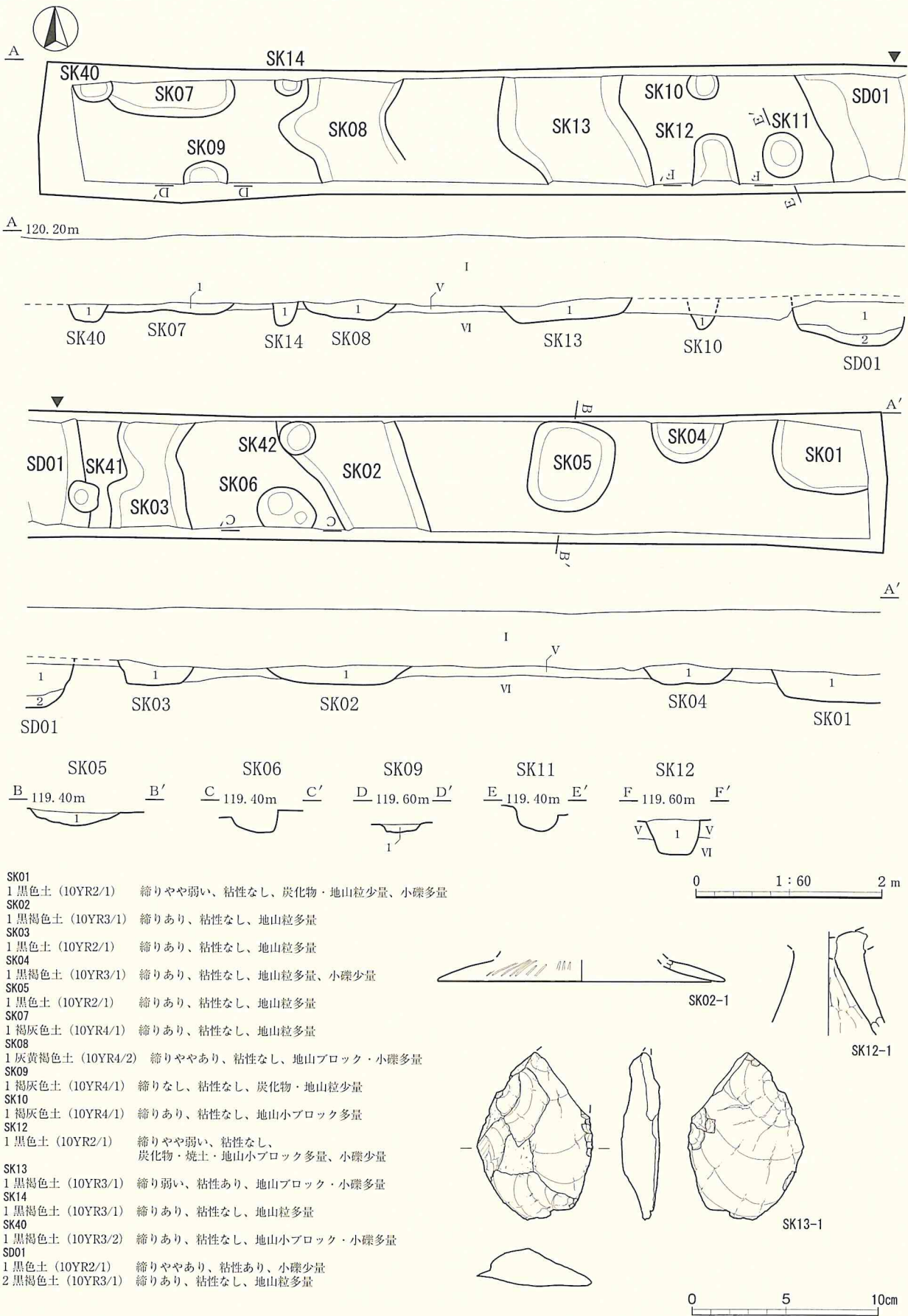


第8図 2区遺構断面図(2)、出土遺物

第3節 溝

溝 SD01・02 (第6・9図、P.L.3)

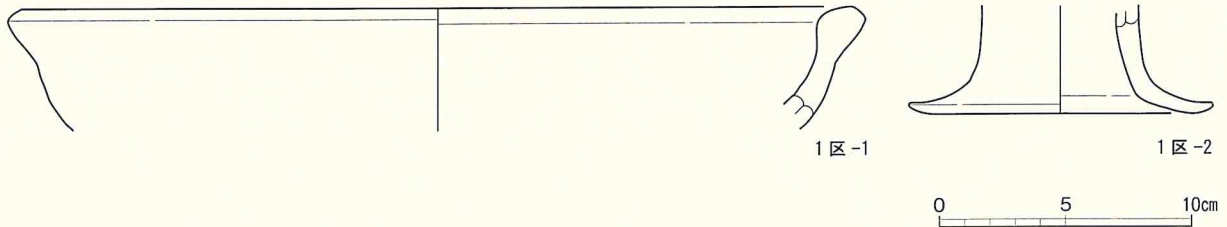
溝は1区と3区で1条ずつ検出した。3区SD01は、土坑群より掘り込みが深いため溝として扱った。ただし北側の延長線上の2区では検出されていないことと、主軸方位が土坑群の長軸と揃うことから、土坑群の一部である可能性も考えられる。1区SD02は蛇行する小溝で、SK15に切られている。両溝ともに遺物は出土していない。



第9図 3区遺構平面図・断面図、出土遺物

第4節 遺構外出土遺物

1区では遺構確認面上で縄文土器片1点、古墳時代の土師器片9点が出土した(第10図、P.L.5)。浅鉢(1区-1)はSK17出土の打製石斧とともに、数少ない縄文時代の資料である。土師器は1区-2などの高坏が8点を占め、1区西側から出土することからSK17に帰属するものと考えられる。2区の遺構確認面上では古墳時代の土師器片6点が出土し、そのうち5点が高坏である。



第10図 遺構外出土遺物

番号	器種	法量(cm) (推定値)[残存値]	①焼成 ②色調(内、外) ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位
SK02 1	土師器 高坏	口径 底径 器高 - (15.5) [1.2]	①普通 ②橙 7.5YR6/6、橙 7.5YR6/6 ③雲母、赤褐色粒 ④脚部裾 1/8	外面：脚部裾ヨコナデ後にヘラミガキ。 内面：磨減。	覆土一括
SK12 1	土師器 高坏	口径 底径 器高 - - [5.6]	①良好 ②橙 7.5YR7/6、橙 7.5YR6/6 ③雲母、赤褐色粒 ④脚部上半 1/2	外面：脚部ナデ。 内面：脚部絞り痕とユビナデ。	覆土一括
SK13 1	石器 リタッチド フレイク	長さ[9.1]cm、幅6.2cm、厚さ2.15cm。重さ87.37g。頁岩。上部欠損。 礫皮をもつ剥片の側縁に片面加工を施す。使用痕はみられない。			覆土一括
SK17 1	土師器 台付甕	口径 底径 器高 - - [3.7]	①良好 ②橙 7.5YR6/6、明褐 7.5YR5/6 ③石英、片岩、赤褐色粒 ④胴部下端～脚部上半 1/4	外面：脚部ナデ。 内面：胴部下端・脚部ナデ。 外面に薄く煤附着。	覆土上層
SK17 2	土師器 高坏	口径 底径 器高 (17.0) - [4.5]	①良好 ②橙 7.5YR6/6、橙 7.5YR6/6 ③雲母、白色粒、赤褐色粒 ④坏部 1/6	外面：坏部ヨコナデ。 内面：坏部ヨコナデ後にヘラミガキ。	覆土上層
SK17 3	土師器 高坏	口径 底径 器高 - (12.0) [11.2]	①普通 ②橙 7.5YR6/6、橙 5YR6/6 ③雲母、白色粒、赤褐色粒 ④脚部 2/3	外面：脚部ヘラケズリ、脚部裾ヨコナデ。 内面：脚部ヘラナデ、脚部裾ヨコナデ。	覆土上層
SK17 4	土師器 高坏	口径 底径 器高 - - [9.7]	①良好 ②橙 7.5YR6/6、橙 7.5YR6/6 ③雲母、チャート、赤褐色粒 ④脚部(裾欠損)	外面：脚部ヘラケズリ。 内面：脚部ヘラナデ。	覆土上層
SK17 5	土師器 高坏	口径 底径 器高 - (13.2) [3.7]	①良好 ②明黄褐 10YR6/6、橙 5YR6/6 ③雲母、白色粒、赤褐色粒 ④脚部裾 1/4	外面：脚部裾ヨコナデ後にヘラミガキ。 内面：脚部裾ヨコナデ。	覆土上層
SK17 6	棒状礫 敲石カ	長さ12.14cm、幅5.72cm、厚さ4.15cm。重さ444.84g。片岩。 棒状礫の端部に敲打痕らしき凹穴がみられる。			覆土上層
SK17 7	石器 打製石斧	長さ[8.85]cm、幅[6.2]cm、厚さ2.0cm。重さ128.45g。安山岩。中央～刃部欠損。 割礫を素材とし、両側縁を直接打撃による両面加工を施す。			覆土上層
SK18 1	土師器 高坏	口径 底径 器高 (16.0) - [2.1]	①普通 ②橙 7.5YR6/6、橙 7.5YR6/6 ③雲母、赤褐色粒 ④口縁部 1/12	外面：口縁部ヨコナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。 内外面赤彩。	覆土一括
SK18 2	土師器 高坏	口径 底径 器高 - (16.6) [1.8]	①普通 ②橙 7.5YR6/6、橙 7.5YR6/6 ③雲母、白色粒、赤褐色粒 ④脚部裾 1/12	外面：脚部裾ヨコナデ。 内面：脚部裾ヨコナデ。	覆土一括
SK25 1	土師器 鉢	口径 底径 器高 13.7 - 8.7	①良好 ②にぶい黄橙 10YR6/3、橙 7.5YR6/6 ③チャート、片岩、白色粒 ④口縁部 1/3 欠損	外面：口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。 口縁部外面に煤附着。	覆土下層
SK25 2	土師器 台付甕	口径 底径 器高 - (11.0) [6.9]	①良好 ②にぶい黄橙 10YR6/4、にぶ い黄橙 10YR6/4 ③石英、白色粒 ④脚部 1/2	外面：胴部下端～脚部ヘラケズリ後にヘラナデ。 内面：胴部下端・脚部ヘラナデ。	覆土下層
SK25 3	土師器 高坏	口径 底径 器高 (24.0) - [3.3]	①良好 ②橙 7.5YR6/6、橙 7.5YR6/6 ③雲母、白色粒、赤褐色粒 ④口縁部 1/8	外面：口縁部ヘラケズリの痕跡(磨減)。 内面：口縁部ヘラミガキの痕跡(磨減)。	覆土下層
SK31 1	土師器 高坏	口径 底径 器高 - (11.7) [1.4]	①普通 ②明黄褐 10YR6/6、明黄褐 10YR6/6 ③雲母、赤褐色粒 ④脚部裾 1/6	外面：脚部裾ヨコナデ後にヘラミガキ。 内面：脚部裾ヨコナデ。	覆土一括
1区 1	縄文土器 浅鉢	口径 底径 器高 - - [4.9]	①良好 ②にぶい黄褐 10YR5/4、明褐 7.5YR5/6 ③チャート、輝石、白色粒 ④口縁部 1/16	外面：口縁部ナデ。 内面：口縁部ミガキ。	遺構確認面
1区 2	土師器 高坏	口径 底径 器高 - (12.1) [4.3]	①良好 ②明黄褐 10YR6/6、橙 5YR6/6 ③雲母、白色粒、赤褐色粒 ④脚部下半～裾 1/4	外面：脚部下半ヘラケズリの痕跡(磨減)。 内面：脚部下半ヘラナデの痕跡(磨減)。	遺構確認面

第3表 出土遺物観察表

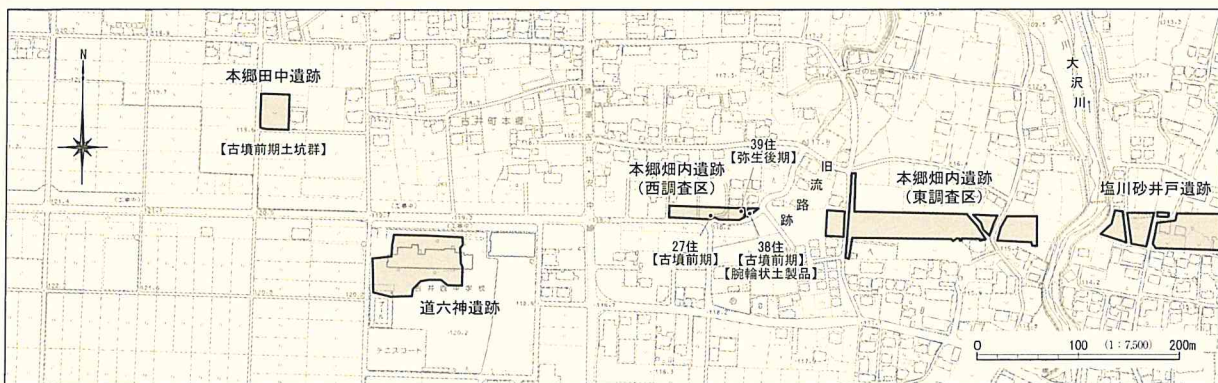
第6章 調査成果

本調査では主に古墳時代の土坑群を検出した。土坑群の時期は、出土遺物の少なさに検討の余地が残るものの、古墳時代前期末にはほぼ限定される。土坑の検出状況を2区でみると、SK19・24、SK28・29、SK25・27、SK18・26などのように、軸を同じくする同規模の長方形土坑が重複なく近接する様子が窺われ、土坑が一定の目的の下に掘削されたことが分かる。また遺物の大部分を高坏が占め、甕類が欠落する点で、堅穴住居跡に代表される居住域における遺物の出土状況とは対照的なあり方である。少量出土した台付甕の脚部についても、口縁部から胴部の破片が全くみられないことから、器台へと転用された可能性を考えたい。このような、ある程度の規則性を有する長方形土坑の分布状況と供膳具に特化した遺物のあり方から、**本調査区周辺には土坑墓で構成される墓域が存在したことが想定される。**SK17にみられるような覆土上層からの高坏の出土は、土坑墓上での供献行為を示したものと解釈される。2区における長方形土坑が、その規模や長軸方位で類型化できることは、被葬者の出自や血縁関係などを反映している可能性も指摘できるが、2区の遺構が大きく削平を受けて遺物の出土が少ないために詳細な検討ができないことが惜まれる。土坑の分布は1区で希薄になることから、2・3区の東西ないし南側に広がると考えられる。

条里制の痕跡を残す溝を調査した道六神遺跡が示すように、本遺跡の南には水田域が広がっており、本遺跡の立地は鑄川右岸の自然堤防状微高地の縁辺部にあたる。この微高地上では、本遺跡の東方600mに位置する本郷畑内遺跡において、遺跡を東西に分断する旧流路跡の西側から弥生時代後期中葉1軒、古墳時代前期末2軒の堅穴住居跡が調査されている。旧流路跡の東側には塩川砂井戸遺跡を含めても同時期の遺構が検出されていないことから、古墳時代前期末の遺構が旧流路跡の西側にまとまりをもって分布することが想定され、本遺跡もその範囲内にあるものと考えられる。この遺構の広がり、本遺跡の北西900mに位置する片山遺跡群の1号墳に連なる可能性もあり、年代的にも、その築造時期（4世紀末から5世紀初頭）と齟齬がない。同古墳は、鑄川右岸の天引川と大沢川に画される下位段丘において傑出した存在であり、周辺には本遺跡や本郷畑内遺跡に先行する前期後半の遺物を伴う堅穴住居跡も検出している。片山遺跡群が古墳時代前期の当地域の開発において主導的役割を果たしたことは想像に難くない。本遺跡は、その片山遺跡群に後出する遺跡として、当地域の居住域と墓域の動向の一端を窺わせるものとなったと総括される。

引用・参考文献

吉井町教育委員会 1986『道六神遺跡』・2004『片山遺跡群発掘調査報告書』
 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2015『本郷畑内遺跡』・2015『塩川砂井戸遺跡』



第11図 本郷田中遺跡と周辺遺跡

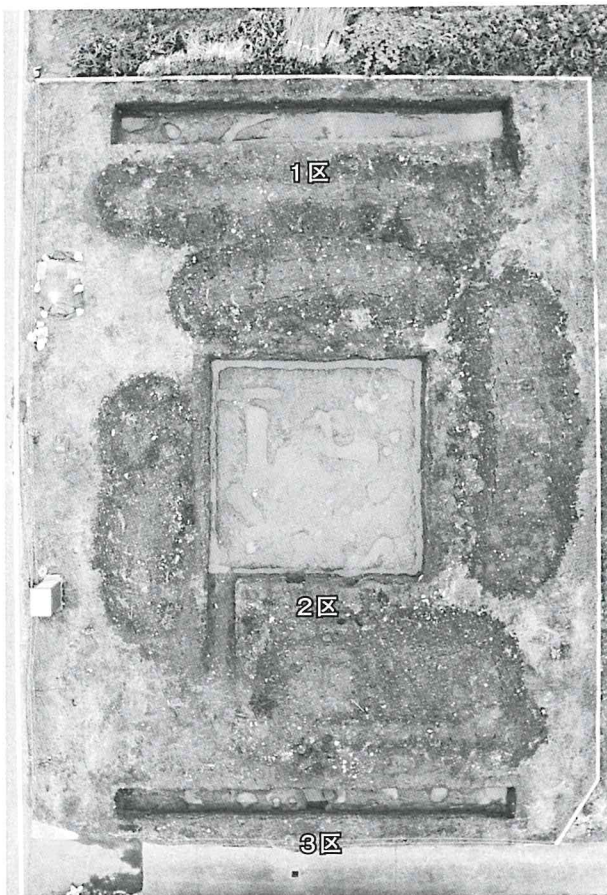
抄 録

フリガナ	ホンゴウタナカイセキ							
書名	本郷田中遺跡							
副書名	送電線用鉄塔建設に伴う埋蔵文化財発掘調査							
巻次								
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第407集							
編著者名	矢島浩 常深尚							
編集機関	有限会社毛野考古学研究所							
編集機関所在地	〒379-2146 群馬県前橋市公田町1002番地 1							
発行機関	有限会社毛野考古学研究所							
発行年月日	西暦2018年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / "	東経 ° / "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ほんごうたなかいせき 本郷田中遺跡	ぐんまけんたかざきし 群馬県高崎市 よしいまちほんごう 吉井町本郷	102020	704	36° 15' 36"	138° 58' 12"	20170731 } 20170812	172 m ²	送電線用 鉄塔建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
本郷田中遺跡	集落跡	古墳時代 その他	土坑 40基 土坑 1基 溝 2条	土師器 縄文土器、打製石斧			古墳時代前期末の土坑群を検出。	

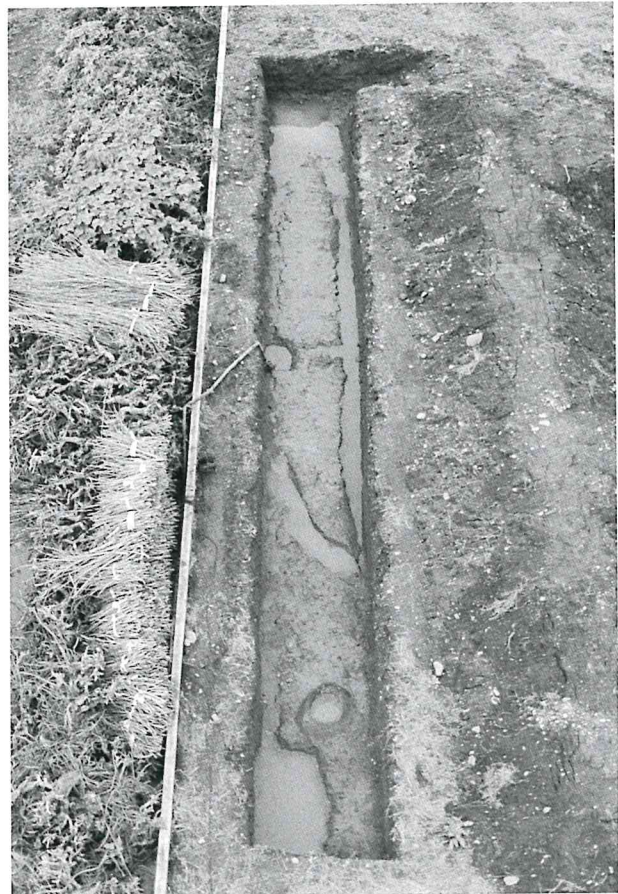
写真図版



調査区遠景（空撮、西から）



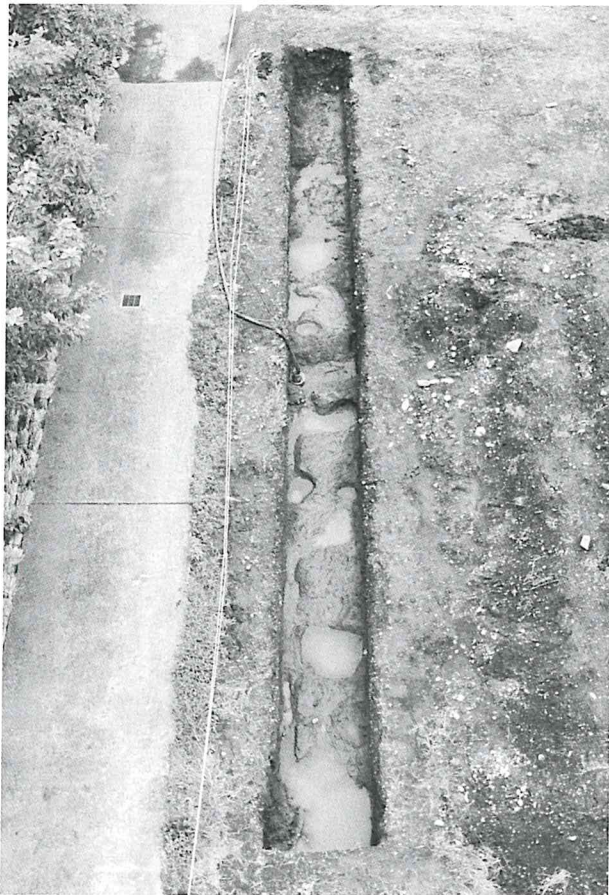
調査区全景（空撮、上が北）



1区全景（西から）



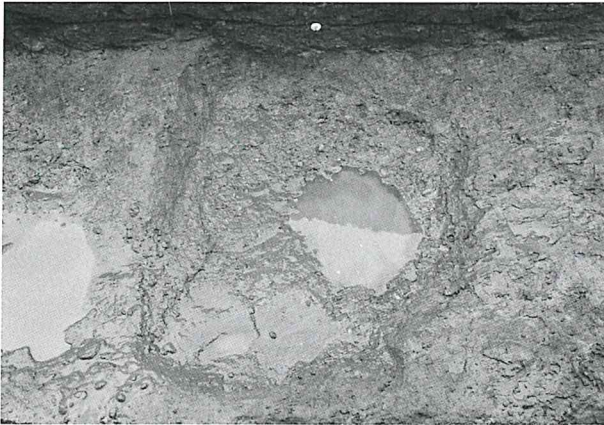
2区全景 (南から)



3区全景 (東から)



1区北壁基本土層 (南から)



土坑 SK05 全景 (南から)



土坑 SK12 全景 (北から)



土坑 SK17 遺物出土状況 (北東から)



土坑 SK18 全景 (南から)



土坑 SK19 全景 (南東から)



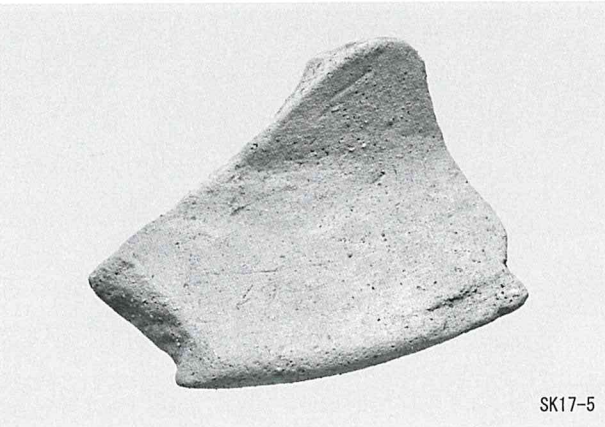
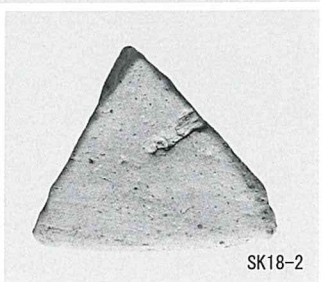
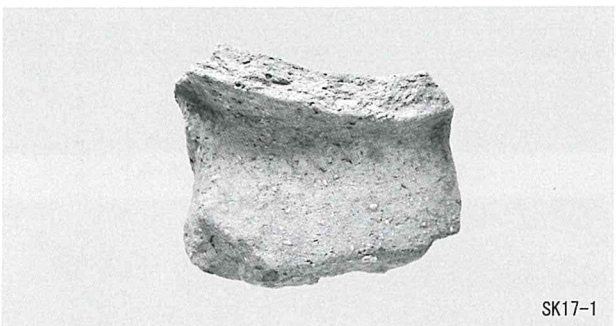
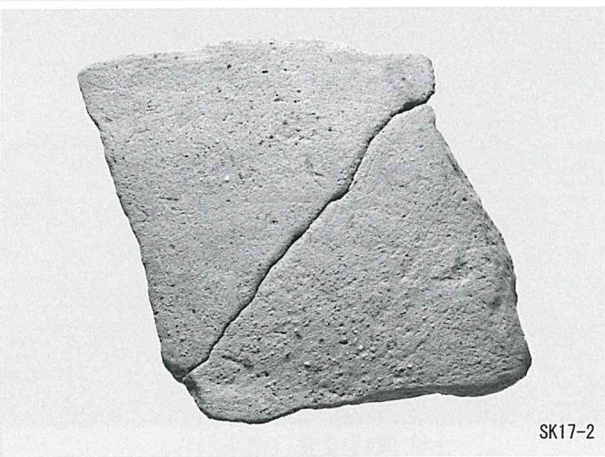
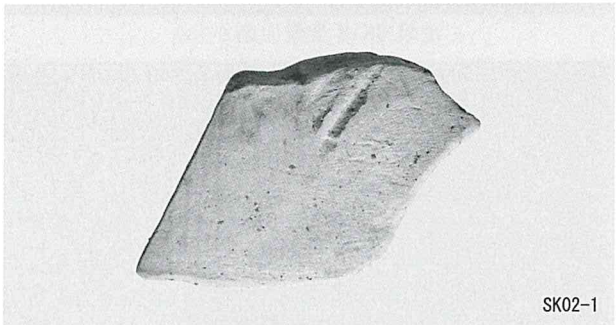
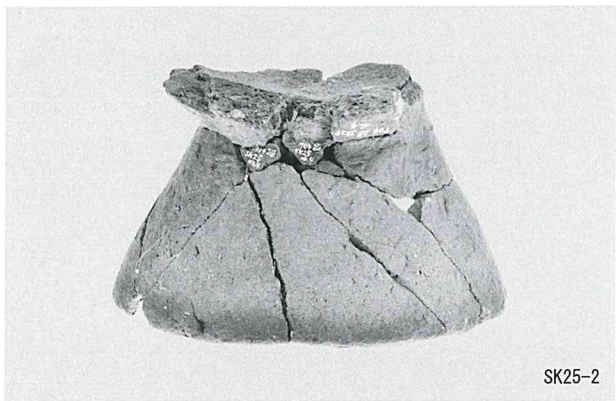
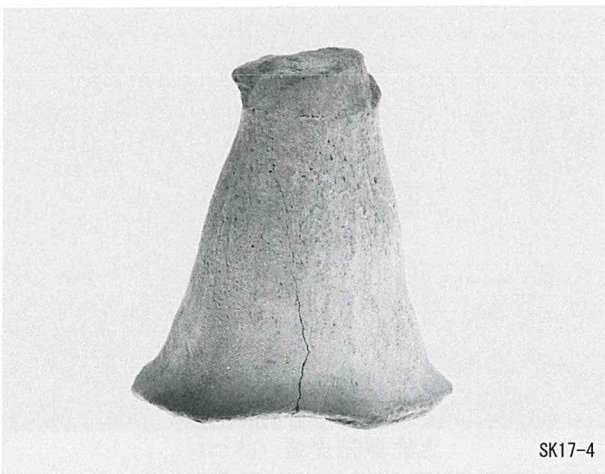
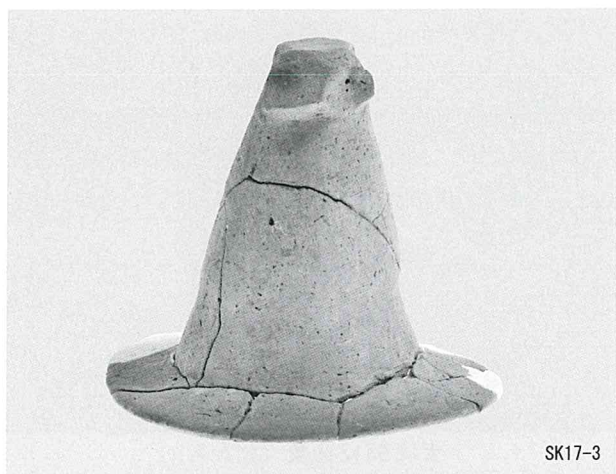
土坑 SK25 遺物出土状況 (北から)

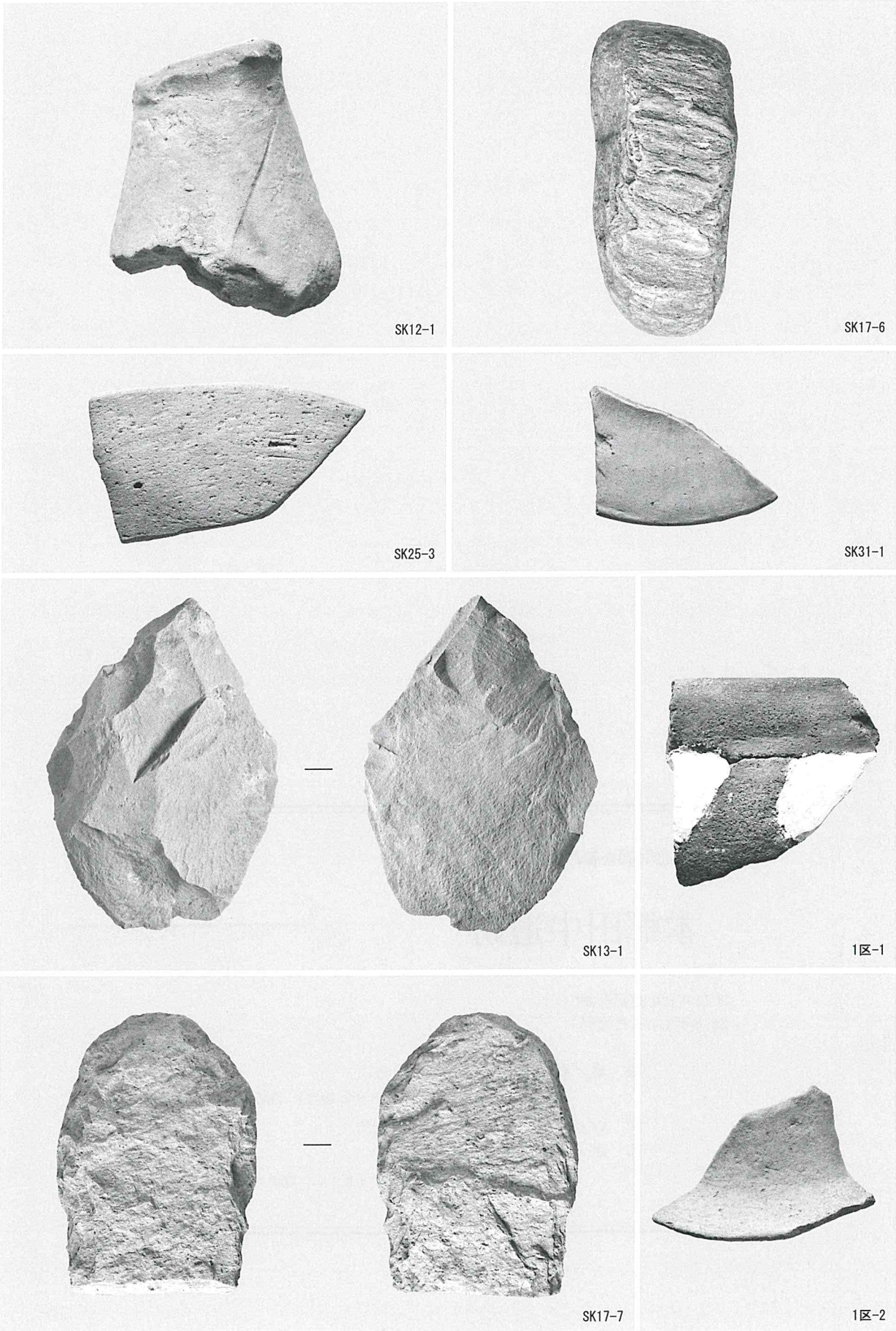


溝 SD01 全景 (南から)



溝 SD02 全景 (南西から)





SK12-1

SK17-6

SK25-3

SK31-1

SK13-1

1区-1

SK17-7

1区-2

出土遺物②

高崎市文化財調査報告書第407集

本郷田中遺跡

2018年3月30日印刷

2018年3月31日発行

編集／有限会社毛野考古学研究所

〒379-2146 群馬県前橋市公田町1002番地1 電話 027(265)1804

発行／有限会社毛野考古学研究所

印刷／中村印刷工業株式会社

〒930-0039 富山県富山市東町2丁目3-22 電話 076-424-4616
